

令和5年度 自己評価結果公表シート

学校法人 大宮学園 大宮幼稚園

1、園の教育目標

「強く」「正しく」「朗らかに」を園訓とし、心技体の調和の取れた豊かな人間性を育成する。

本園の教育目標として

- 1、健康、安全で幸福な生活のための基本的な生活習慣・態度を育て、健全な心身の基礎を培う。
- 2、人への愛情や信頼感を育て、自立と共同の態度及び道徳性の芽生えを培う。
- 3、自然などの身近な事象への興味や関心を育て、それらに対する豊かな心情や思考力の芽生えを培う。
- 4、日常生活の中で言葉への興味や関心を育て、喜んで話したり聞いたりする態度や言葉に対する感覚を養う。
- 5、多様な体験を通じて豊かな感性を育て、創造性を豊かにする。

2、本年度の学校評価の具体的な目標や計画

昨年度に行ったECEQの参加により個人の指導力向上を図り、園内教職員研修や研究討議においても話し合いを計画的に持ちチームとしての指導力向上を図っていく。そして話し合うことから子どもたちのよりよい成長を支援する。又、本格的に取り組んでいる知育活動をさらに高めるために、園独自のテキストを使用しながら効果的に取り組んでいく。自己点検、自己評価を通して、取り組み状況や進捗状況を把握し、全職員で目的を再確認し共通理解を図りながら進めていく。地域、保護者からの外部評価から、その効果について検証し、保護者のニーズに合った教育活動を目指していく。

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組状況
研修会や研究会に積極的に参加し 教員の資質向上を図る。	大阪市私立連合会主催の各種研修会に参加し教職員の指導力の向上を図った。また、幼小連携を図り交流や情報交換などを行いスムーズな移行ができるようにした。
全教職員による観察・指導	全教職員で情報を共有し全園児に関わり、多くの視点で子どもを観察するようにした。宿泊行事や各種発表会などの機会には、特に、配慮を要する子どもたちに多くの教職員が関わり、子ども一人一人の様子について、保護者と共通理解を図り、他機関からの助言や、教職員間の情報交換を積極的に行うようにした。
学年会の充実	学年会を定期的に持ち、どのクラスも同じ歩調で指導するように教材研究をしたり、配慮を要する子どもたちへの事前打合せをした。また、問題が起きても担当保育者が一人で抱えることなく、情報交換から適切な対応や担任を支えることができるように、学年会を充実するようにした。

効果的な指導方法	指導者から教えることが多くなりがちな年齢ではあるが、子どもたちの主体性を育てるためには、出来るだけ自分で考え判断し行動できる環境を整えることが大切である。話し合いの場を多く設定し、自分で考え行動する機会を多くするように工夫した。
安心感ある保育活動	新しい活動や一人でする活動に対して子どもが不安に感じる事のないように心掛けた。又、事前に見通しをもたせたりゴールを明確化したりした。無理をせず友だちと一緒に楽しく活動したり、必要に応じて先生が傍に付いたりして子どもが安心して取り組めるようにした。
よりよい友だち関係をつくる。	「見てほしい、聞いて欲しい」などの一人一人の内面的欲求を充足させ、少しずつ自分以外友だちの気持ちに気づいたり、考えたりできるようにすることから友だちと関係の楽しさに触れさせていく。そのためにも指導者がしっかり子どもの話に耳を傾けるようにした。
基本的な生活習慣の指導	今年度も健康的・衛生的な生活習慣として、「早寝、早起き」「手洗い・うがい」について重点的に指導した。 基本的な生活習慣を保護者と連携し身に付けていくようにした。
自立支援	変化に不安を感じる子どもが多い。園生活をできるだけ不安の少ないパターン化したり、予告支援をしたりすることから安心・自立を支援した。身の回りの整理・整頓の大切さを家庭と協力して指導し、家族の一員としての意識を育てるようにもした。
情報の発信	毎月の園だよりやブログで、行事予定や各種案内だけでなく、子ども達の日々の様子を保護者へ伝えた。さらに、緊急情報には各家庭へメール配信も行い、園児の安全管理にも役立てた。

4、 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	<p>各項目の達成状況を教職員間で振り返り評価した。行事や活動が計画的に実施され、保護者との連絡も深まり保育活動に対して協力的な様子も見られた。特に知育活動が展開されたこともあり、園児の確かな成長が認められたことなどが報告された。保護者からの協力も多く得られた。</p> <p>ECEQ®認定園にも認定され、他園の職員の方々の意見を聞くことで、改めて自園の保育について振りかえり、職員も新たに課題を見つけ、意欲的に今後の保育に活かすことができた。その結果、概ね目標を達成していると判断した。</p> <p>今後も地域との連携を深め、地域・保護者・園で子どもたちを見守り育てる環境を整え充実した保育にしていくように努力を積み重ねていく。</p>

5、 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
園内研修会の充実	園内の教職員の中には、優れた指導技術を備えているものもいる。お互いの保育指導の様子を見合ったり、交換保育をしたりする中で、教職員一人ひとりの持ち味を生かした指導方法を見つけたり、改善点を話し合ったりして、指導技術の向上を図っていく。情報を共有する研修会を行い、自園で取り入れられる活動や指導方法についても話し合い、新しい活動を作っていく。
指導方法の向上	どの子にも「できた」「もっとしてみたい」と、主体的にチャレンジする気持ちを育てたい。また、特別支援の子どもに対しても、環境調整と適切な指導の充実に取り組む。幼児期は、「教える」ことより、「育てる」ことの意識をもち、子どものペースを大切にしながら支援していきたい。
小学校との連携	子どもの情報交換だけでなく、小学校との交流を密にした取り組みを行っていく。小学校の行事にも園児が参加したり、児童が園を訪問したりして、段差のない移行ができるようにしたい。現在も小学校区の評議委員を担当していることもあり、さらに、幼小の連携を深めていく。

6、 学校関係者評価委員会の意見

<p>学校関係者評価委員会において具体的な保育活動の内容について説明を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域からは、地域行事に幼稚園が積極的に関わっていることや、いろいろな子育てに関する相談に対しても、適切に対応されているとの報告があり、概ね高い評価をいただいた。引き続き、地域の子どもたちの健全育成や、保護者の子育て相談できる場としての役割を果たして欲しい旨の要望が出された。 ・保護者からは、子どもたちの成長を引き出していただいていることを高く評価する意見が出された。特に、以前と変わらない行事の開催で、子どもの成長を見る機会が多くあり、喜んでいただけた。多くの意見が激励であったことから、概ね「目標は達成されていた」と判断するに至った。 <p>しかし、コミュニケーションの希薄化が進むことから人間関係を煩わしく感じ避ける様子が保護者に多く見られ、些細なことでトラブルに発展しているとのことが多いとのことであった。子どもの環境づくりには、保護者同士の関係作りが大切であることから、保護者同士が行事に参加する中で、お互いによく知ることができる機会にすることも、幼稚園の大切な役割である。</p>
--